

◎特集 1 / 「富士の国やまなし国文祭」全国初の通年開催！

◎特集 2 / 学力向上実践研究推進事業研究成果報告

- 教職員研修事業の紹介
- 平成25年度山梨県公立高等学校入学者選抜の基本事項について
- 県立博物館企画展「クニマスは生きていた 山梨おさかな発見物語」
博物館を活用した夏休み自由研究プロジェクト
- 県立美術館 増田誠 パリー人生の哀歓
- 県立文学館特設展 「フランダースの犬 愛と友情の物語」
- ミュージアム甲斐・ネットワーク / 南アルプス市立春仙美術館
- 「もっと山梨の文化財のことが知りたい…」 Web版『山梨の文化財ガイド』
- らくがき 甲府城西高等学校 切刀 也代衣 教諭
かえで支援学校 金丸 学 教諭
- 山梨の考古学と埋蔵文化財活用研修と各種事業の紹介
- 学校紹介 / 南アルプス市立八田小学校、県立富士北稜高等学校
- 総合教育センター情報 / 教員の資質向上に資する研修会を目指して
- 県立図書館 / 11月11日 新県立図書館オープン
- 山梨の文化財 / 県指定有形文化財 武田晴信室三条氏墓
- 主な行事予定



「富士の国やまなし国文祭」全国初の通年開催！ 文化の風とあそぶくみつめる・こえる・つなげる

— 企画県民部国民文化祭課 —

国民文化祭が山梨県で開催されます！

第28回国民文化祭・やまなし2013

平成二十五年一月十二日～十一月十日

■国民文化祭とは

国民文化祭は、文化活動に親しむ個人・団体が集まり、発表、競演、交流する場であり、日本最大の文化の祭典です。これまで各県持ち回りで、年一回、秋の文化の日を中心に十日程度で開催されてきました。

過去の開催状況は、出演者三万人、出演団体二千、観客及び出演者、応募者、スタッフ等を含む参加者総数は開催県の人口に匹敵する規模の一大イベントです。

■山梨県の国民文化祭の特徴

山梨県は、国民文化祭を全国初の通年開催として、一月から十一月まで303日間開催し、県内外の方々に、山梨の祭りや伝統文化はもとより、四季折々の豊かな自然環境に触れ、体験していただけるようにしました。そのために、会期を四つに分け、冬のステージから、春、夏、秋のステージと季節を感じることができるよう内容とし、年間を通して、様々なジャンルの文化・芸術イベントが繰り広げられます。

県内二十七すべての市町村で行う『市町村主催事業』では全国公募の事業や地域の特徴を生かした七十九の事業を展開していきます。

『県主催事業』では、「季節のステージオーブニングイベント」やシンポジウムを中心とする「やまなし発見フォーラム」、伝統文化、食文化、アニメ、国際交流など様々な文化が集う「文化まるごとフェスティバル」など十六の事業を実施します。

また、県主催の『通期事業』は、いつでも、どこでも、誰でも楽しめるものとし、国民文化祭後も山梨の文化として定着させていきたいと考えています。歩きながら地域の伝統文化をみつける「やまなしフットパス」、自由な発想で作する「やまなし造形遊び」、あちこちで音楽やパフォーマンスを楽しむ「まちなかステージ」、山梨の食をみつめ、食文化を味わい、つなげていく「やまなし食のカレンダー」の四事業ですが、子どもから年配の方まで、会期を通じて楽しめるものになるよう準備を進めています。

■学校、児童・生徒の参加

国民文化祭は国民すべてを対象にした文化の祭典ですので、小中学生、高校生の国民文化祭

への関わり方にも色々な方法があります。

まずは、各学校で日頃行っている文化活動やその成果を、周囲や一般の方に公開するなど外に向けて伝える機会となり、学校から地域に、文化の風が吹くことを期待しています。

また、直接の国民文化祭の関わりとして、
①個人で各事業に出演・作品応募するなどの参加（演劇、バレエ、短歌、通期事業等）

②個人で見る、聞く、味わうなどの参加（開会式、絵画、食の祭典等）

③部活動等からの出演（華道、茶道、合唱、吹奏楽、日本音楽、写真等）

④部活動からのおもてなしへの参加（来場者への呈茶、ウエルカム演奏等）

⑤運営ボランティアとしての参加（受付・案内等の大会業務）

⑥学校として市町村事業や県事業に参加や運営協力するなどが考えられます。

昨年開催された京都の国民文化祭では、小学生在が駅前のフラワーポットに絵を描き、親





た学校で能を学ぶなど国民文化祭に関わるテーマに沿っての参加や、地域の祭りの担い手としての参加もありました。事業会場内で放送部員がイベント

子料理教室で郷土料理を作り、短歌や現代詩、演劇の祭典に出演しました。夏休みの課題として郷土学習を行い、その成果を展示する児童もいました。また「京都探検」をして、朗読劇に仕立てました。

民俗芸能体験に参加した小学生は、お囃子や人形浄瑠璃などを保存会の人から学び、練習を重ねて発表をしました。後継者不足が叫ばれながら、こども達にはなかなか体験する機会がなかったため、国民文化祭を機に学校と地域との連携が図られ、参加した児童にとっても、学校の外で地域の人から継続的に学ぶという経験に新鮮なものがあつたようです。

中学生は、市町村事業に関わって総合学習で学んだ地域の祭りについて展示発表を行い、ま



やブースの紹介をするなど、活動の場を校外に移し、実際に多くの人が集まる場面で案内放送をすることに意義を感じたと言います。小中学校では、児童・生徒などと地域とのつながりが目立ち、地域の教育力向上という点でも有意義な機会となったとのこと。

高校生は、開会式の中で、日本語、英語、手話でメッセージを伝え、壇上での生け花、書道の披露、雅楽の演奏、ミュージカルへの出演、合唱、ファンファーレを担当するなど活躍しました。

また、パレードへの参加、会場内での呈茶のおもてなしや受付やクローク、案内のボランティアとして、爽やかな対応をしていました。二人を超える高校生が参加したということですが、多くの人の前で演技や演奏をし、また他県からの来場者と接することで、自分達の街として京都を意識するとともに、役割への自覚と責任を感じたとの高校生の感想があり、一つの社会勉

強の場となったようです。

山梨県においては、一年の会期を通して、すべての県民が文化を楽しみながら参加し、国民文化祭に訪れる来県者を温かくおもてなしできるようにと考えていますので、積極的な参加や協力をお願いします。

■「カルチャくん」

国民文化祭のマスコットキャラクター「カルチャくん」はどこに行ってもそのかわいらしさで人気者です。各種イベントや学校にも訪問をします。是非声をかけてください。

これからの文化の担い手として小中高生のパワーが必要です。一緒に、山梨の文化を全国に発信し、平成二十五年に開催される国民文化祭を盛り上げていきましょう。



「富士の国やまなし国文祭」ホームページ

<http://yamanashi-kokubunsai.jp>

【問い合わせ先】

第28回国民文化祭山梨県実行委員会

電話 055-223-1846



学力向上実践研究推進事業研究成果報告

— 県立吉田高等学校 —

一 はじめに

吉田高校は、平成二十一年度に文部科学省より学力向上実践研究推進事業の指定をうけ、基礎的・基本的な知識を統合・活用する、探究的な「総合的な学習の時間」の指導方法、評価方法の研究に取り組んでまいりました。

ここでは、三年間の取り組みについて紹介したいと思います。

二 主な研究活動とその取組

本校では、学力を「基礎的・基本的な知識および技能を統合・活用して課題を主体的に解決するために必要な思考力・判断力」と定義し、総合的な学習の時間「富士山学」を活用して、この学力をすべての生徒に身につけさせることを、本事業の目的としました。さらにその成果を、各教科に還元し、普段の授業においても探究的な学習活動を実践するよう、取り組みを進めました。

① 探究活動およびポスターセッションによる発表（二年生）

本校では、平成十四年度より、富士山および富士北麓地域を総合的に学ぶ「富士山学」を、学校設定教科として設定し、多くの生徒が講演や校外活動などを通して学んできました。

この経験を生かし、平成二十一年度からは、

総合的な学習の時間に「富士山学」を導入し、すべての生徒が取り組むことができるようになりました。

平成二十二年度には、「富士山学」に探究的な学習活動を取り入れました。具体的には七分野において、三々四人のグループごとに自分たちが定めたテーマについて、探究活動をすすめ、その成果を発表するというかたちをとりました。

平成二十三年度は、分野を九に増やし（「山梨の言葉と文学」「富士山を芸術する」「富士五湖周辺について調べ、英語で発信する」「地域の歴史に学ぶ」「富士山と防災」「富士山の地質」「富士山の動植物」「富士山の自然保護」「富士北麓地域の町おこし」、研究の期間も大幅に延長し、約一年をかけて、課題にしっかりと取り組むことになりました。この探究活動では、担当の先生方はアドバイスのみで、できるだけ生徒の自主性を促すように心がけました。普段、教室では見られない、生き生きとした表情で調査・研究をおこなっていた生徒たちの姿が印象に残っています。また、研究の成果を、パワーポイントだけでなくポスターセッションという形式で発表することにしました。



「道の駅富士吉田」でのインタビュー

② デイバート（一年生）

平成二十三年度には、生徒の言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を養うことを目的に、一年生を対象にデイバートを取り入れました。まず、教員による模擬デイバートを実施し、デイバートの基本的ルールなどを生徒に把握させました。その後、ホームルームごとに、「基礎」と「応用」という形で二回にわたってデイバートを実施しました。「基礎」では、初めての生徒がデイバートに取り組むことができるよう、基本的なテーマ（「救急車は有料にすべきである」「死刑制度を廃止すべきである」「消費税をあげるべきである」）を設定して、デイバートをおこないました。そして次の段階では「応

用」として、富士北麓地域に関わるテーマ（「富士山に入山料を導入すべきである」「富士山に観光用の富士山鉄道を引くべきである」「富士五湖の花火大会は継続すべきである」）を設定して、ディベートを実施しました。

生徒たちは、教員が予測した以上にディベートに熱心に取り組んでいました。日頃真面目に授業に取り組んではいるものの、発言が必ずしも多くない吉田高校の生徒にとって、自らの主張を多くの人の前で発表できるよい機会になったようです。この学年では、今年度もディベートをさらに発展させたかたちで実施したいと、教員も生徒も考えています。



ディベート（1年生）

③ 研究発表

二月十七日には、県内外の教育関係者を吉田高校にお招きし、研究発表をおこないました。

一年生は、富士北麓地域に関わるテーマにもとづき、ディベートを実施しました。「肯定側」もしくは「否定側」どちらが勝ったかは、来場

者に判断していただく形式を採用しました。なかには、校内での発表では負けたものの、戦術を変え、研究発表では勝利をおさめたグループもありました。

二年生は、九分野でそれぞれ二グループずつが代表として、ブースを設けて、ポスターセッション形式で発表をおこないました。中にはクイズ形式を採用したり、町おこしのために作成した観光ガイドマップを配付したり、簡単な実験をおこなうグループがあるなど、生徒たちは様々な工夫を凝らして参加者の興味を引き付けながら発表しました。

発表前後には、本校と連携している慶應義塾大学理工学部の大学院生からアドバイスをうけるなど、今後大学への進学を目指している生徒たちにとって非常に貴重な経験になったようです。



ポスターセッションによる発表

三 研究の成果と課題

アンケートの結果、本事業の実施前と後では、

本校の生徒に学習に対する意識に変化が見られたことがわかりました。

○「高校での学習は、将来自分の役に立つと思いますか」↓実施後は「非常に思う」「ある程度思う」が八・二％増加。

○「自ら疑問に持ち、課題を見つけ、探究していく学習活動に関心がありますか」↓実施後は「非常に思う」「どちらかといえばある」が七・一％増加。

○「普段、自ら学習活動に取り組んでいますか」↓実施後は「積極的に取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」が十九・五％増加。

○「自分が調べたことや自分の意見を、他人に発信することに自信が持てるようになりましたか」↓実施後は「非常に自信が持てるようになった」「ある程度は自信が持てるようになった」が十九・二％増加。

どの回答でも、学習活動に前向きに取り組むようになつた傾向が見てとれます。

普段の授業および学習活動に加え、教員が教え込むことなく生徒が主体的に活動に取り組む活動、グループで協力しながら取り組む活動、探究的な学習活動などが、生徒の学習に対する意欲喚起に効果的であることが実感できました。

今後は、家庭学習の中心は「与えられた課題に取り組むこと」と答えた生徒（二十五・五％）を少しでも減らし、主体的に学習活動に取り組む生徒を、八十％以上に増やすことを目標としていきたいと考えています。

教職員研修事業の紹介

～ 専門性のさらなる向上を目指して ～

— 義務教育課 —

教職員の研修

教育基本法第九条には、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」とあります。国際化や情報化の進展等変化の激しい今日において、私たち教職員には多様で、しかも高度な資質能力が求められています。こうしたことから、一人一人の教職員が、自ら主体的に日々研修に努め、自己の資質能力の向上を図ることが期待されているところです。本県では、任命権者の定めるところにより、現職のまま、長期にわたる研修を受ける機会があります。

学校・授業改善に向けた実践的な取組が行われています。こうした取組では、県内の学校が、連携協力校として授業実践評価や研究授業を通しての授業力の向上などに取り組んでおり、校内研修会の活性化にもつながっています。

その他の研修内容

○ 国内大学留学生（大学の他、専門学校などに一年間の留学）

○ 山梨県総合教育センター一般留学生（総合教育センターでの一年間の研修）

ます。こうしたことから、一人一人の教職員が、自ら主体的に日々研修に努め、自己の資質能力の向上を図ることが期待されているところです。本県では、任命権者の定めるところにより、現職のまま、長期にわたる研修を受ける機会があります。

◆ 民間企業等派遣研修

民間企業等における経営理念、人材育成や企業内研修の実態、業務の実際等を体験・研修します。民間企業、社会福祉施設等において一年間の研修を行います。この研修により、社会の急激な変化に適切に対応した学校教育を創造するための豊かな見識と、広い視野に立った教育力を培い、教員の資質の向上を図ることを目的としています。

これまでに、ハイランドリゾートホテル・甲府富士屋ホテル・オギノ・テレビ山梨などに派遣しています。

全ての校種の先生方を対象に、毎年十月に研修生の募集をしています。

◆ 海外派遣研修

諸外国の教育、文化、社会などの実情を視察・実体験することにより、国際的視野に立った見識や教職に対する誇りを高めるとともに、教員としての資質の向上を図り、研修後に指導的な立場に立つて活躍する人材の育成を目指しています。

英語教員海外派遣研修

中学校と高等学校の英語科の教員を毎年一名ずつ海外での研修に派遣しています。二ヶ月間、現地の大学で、指導法に関する研修や自身の英語力の向上に取り組みます。昨年度はアメリカ・デンバー大学とイギリス・バーミンガム大学で研修しました。例年、三月に翌年度の研修参加候補者を募集しています。

教育課題研修指導者養成研修

全ての校種の先生方が対象の研修です。県喫緊の五つの課題を研修テーマとします。昨年度は「国語力・読解力」でアメリカに、「理数系教育」でフィンランドに、「キャリア教育」でフランスなどに、小・中学校より十二名、県立学校より四名を派遣しました。例年、四月に研修参加候補者を募集しています。

◆ 教職大学院等の研修

山梨大学教職大学院

平成二十二年度に新設された山梨大学大学院教育実践創成専攻（教職大学院）では、地域や学校において指導的・中核的な役割を果たすために不可欠な、確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクーラーリーダーの養成を目標としています。二年間の研修を行い、後半の一年間は、所属校に勤務しながら研修をします。

授業では、大学教授による演習が行われています。中でも、学校・授業改善プロジェクト実習では、

平成二十五年山梨県公立高等学校入学者選抜の基本事項について

— 新しい学校づくり推進室 —

山梨県教育委員会は、去る五月十五日に平成二十五年の入学者選抜に関する基本事項を公表しました。

全日制課程の入学者選抜制度の主な特徴は、次のとおりです。

- 一 全県一学区です。
- 二 「前期募集」と「後期募集」の二度の受検機会があります。
- 三 「前期募集」では、自分の興味・関心、特性を生かした受検ができます。
- 四 「後期募集」では、志願先高校に普通科、専門教育学科又は総合学科が設置されている場合、志願する学科のほかに第二希望まで志望順位を付けることができます。

平成二十五年入学者選抜の概要は次のとおりです。

一．全日制前期募集

- ① 検査方法
面接のほか、各高校が定める作文、特技、個性表現のいずれかを併せて実施します。
- ② 出願期間
平成二十五年一月十六日（水）から
一月十八日（金）

- ③ 検査期日
平成二十五年一月三十日（水）、三十一日（木）
- ④ 入学許可予定者の内定日
平成二十五年二月七日（木）

二．全日制後期募集

- ① 学力検査
国語、社会、数学、理科及び英語（リスニング含む。）を実施します。
- ② 出願期間
平成二十五年二月十九日（火）から
二月二十一日（木）
- ③ 検査期日
平成二十五年三月七日（木）
- ④ 入学許可予定者の発表
平成二十五年三月十四日（木）

三．全日制再募集

- ① 検査方法
面接のほか、作文又は新たに行う学力検査を実施します。
- ② 出願期間
平成二十五年三月十四日（木）、十五日（金）、
十八日（月）
- ③ 検査期日
平成二十五年三月十九日（火）
- ④ 入学許可予定者の発表
平成二十五年三月二十一日（木）

四．定時制入学者選抜

- ① 検査方法
学力検査及び面接を実施します。
- ② 出願期間
平成二十五年二月十九日（火）から
二月二十一日（木）
- ③ 検査期日
平成二十五年三月七日（木）、八日（金）
- ④ 入学許可予定者の発表
平成二十五年三月十四日（木）

五．定時制再募集

- ① 検査方法
再募集に当たつての学力検査及び面接を実施します。
- ② 出願期間
平成二十五年三月十九日（火）、三月二十一日（木）、三月二十二日（金）
- ③ 検査期日
平成二十五年三月二十五日（月）
- ④ 入学許可予定者の発表
平成二十五年三月二十七日（水）

六．その他

- ① 詳細については、別に定める「平成二十五年山梨県公立高等学校入学者選抜実施要項」によります。（十月下旬公表予定）
- ② 平成二十五年入試の募集定員は、中学校卒業予定者の進路希望調査などを考慮し、十一月月上旬に決定する予定です。

夏休みの企画展「クニマスは生きていた — 山梨おさかな発見物語 —」 博物館を活用した夏休み自由研究プロジェクト

— 県立博物館 —

夏休みの企画展「クニマスは生きていた — 山梨おさかな発見物語 —」

私たちの暮らしは、意外なほどに魚と深く結びついています。例えば山梨県内の遺跡からは多くの魚骨が出土していますし、江戸時代の記録からも海産魚を消費していたことがうかがえます。そして今日においても、山梨はマグロやアジ干物の消費量が多いなど、内陸県であるにも関わらず独特の魚食文化を持っているのです。さらに、魚といえば平成二十二年に西湖で発見され、大きな話題を呼んだ「クニマス」が思い浮かびます。今まさに調査・研究が行なわれているこの魚の生態と歴史をご存知でしょうか？

県立博物館の展覧会では、「クニマス」の謎に迫るほか、山梨の風土の中で培われてきた独自の魚との関わりや、山梨に運ばれる海産物の産地である駿河湾や相模湾の環境や魚類の生態を紹介していきます。また、展示方法は、子どもたちが楽しみつつ学び、研究の楽しさを実感できるように工夫を凝らしています。先生方にとっても、山梨の歴史と文化を知るだけでなく、歴史・地理・環境・地域学習など、様々な分野の教育に生かせるヒントがあると思います。この夏は「魚」をキーワードに文化をひもとき、過去から未来に向けて、人と自然との関わりを考えてみてはいかがでしょうか。

○主催 山梨県立博物館

○開催期間 平成二十四年七月十四日(土)～九月三日(月)

○場所 山梨県立博物館(笛吹市御坂町成田一五〇一)

○観覧料 一般五〇〇円、高校・大学生二五〇円、小・中学生一三〇円

※各種割引等あり。詳しくはお問い合わせください。
※県内小中学生は、「夏休みフリーパスポート」により無料

○主なイベント

・講演会「クニマスと共に — 過去から未来へ —」

八月十九日(日) 午後一時三〇分～四時

講師 中坊徹次氏(京都大学総合博物館教授)、三浦久氏(田沢湖に命を育む会)
・「魚つりゲームを作って遊ぼう」

七月二十二日(日)、八月二十六日(日) 午前十時三〇分～午後三時

お問い合わせ 県立博物館 電話 〇五五―二六一―二六三二

FAX 〇五五―二六一―二六三二

博物館を活用した夏休み自由研究プロジェクト

夏休みといえば、やっかいな宿題のひとつに自由研究が挙げられるかもしれません。調べ方がわからないとか、調べる内容が思いつかないといった子どもたち自身の悩みに加え、指導する先生方にとっても「アドバイスが難しい」など悩みが尽きないことでしょう。

そこで活用いただきたいのが博物館施設です。県内には美術、歴史、科学、自然など様々な分野の博物館施設があります。展示を見ながら研究テーマを探ったり、館内の図書室で調べたり、専門職員に相談してみるのもいいでしょう。一度に多くの博物館施設の概要を知りたいという人には「夏休み自由研究プロジェクト」(詳細左記)がおすすめです。県内の博物館施設が集まってワークショップを開催し、自由研究や工作のヒントを提供しています。

この他「夏休みなんでも質問箱」も開設し、子どもたちの質問に博物館が答えます。これらの実施の詳細は、7月に県内全小中学校に配布する「『交い』特別号」をご覧ください。自由研究で困ったら博物館へ。児童生徒のみなさんと先生方のお力になれると思います



「夏休み自由研究プロジェクト」

日時：平成24年7月16日(月・海の日)
午後1時30分～午後4時30分

場所：アイメッセ山梨 展示場
(山梨県甲府市大津町2192-8)

内容：県内の博物館・美術館が集まって、自由研究や工作のヒントを提供します。約20館が参加予定です。

申込：不要

料金：無料

※各館の実施内容により、材料費が必要なブースもあります。

増田誠 パリ ー人生の哀歓

ー 県立美術館 ー

増田誠（1920～1989）は、長くフランスで活躍した山梨県出身の洋画家として知られています。故郷の都留市にある増田誠美術館ではその作品が常時展示されています。県立美術館では、これまでその生涯や業績を、まとまったかたちで紹介する機会はありませんでした。本展では、都留市や富士吉田市に所蔵されている作品のほか、増田をフランスへ送り出し、その後も長く交流を続けた北海道・釧路の所蔵家のもとにある作品もあわせて展示し、増田誠の作品世界を検証します。



《キャナル・サンマルタン》1973年

増田は、1920（大正9）年に山梨県南都留郡谷村町（現、都留市）に生まれました。太平洋戦争時に徴兵されましたが、戦後は釧路で暮らしました。そこで看板業を営んでいましたが、1957（昭和32）年にフランスへ渡ります。そしてサロン・ドートンヌやル・サロンといった公募展に出品を続け、1963年にサロン・ドートンヌの会員になり、65年にはル・サロン・デ・ザルティスト・フランセで金賞を受賞するなど、フランスの画壇で認められていきました。日本では1970（昭和45）年から小田急百貨店で個展を開催し、1988（昭和63）年の第15回展まで、多くのファンを魅了しました。



《モンパルナスの夜》1973年

増田はいくつもの得意なテーマを何度も描きました。初期には港や河岸の風景を描いた風景画により

「水のマスダ」として知られました。パリのセーヌ川その他、ノルマンディー地方の港町オンフルールやディエップは度々足を運んだ地でした。また、人物は彼の生涯のテーマであり、特にパリの市井の人々の生活を切り取った作品を得意としました。パリの街角の情景や、蚤の市のお爺さん、カフェで会話する人たちや市場で買い物をする女性たちなどを、愛情をもって描き続けたのです。

さらにギリシャ神話や聖書の世界にも傾倒し、大作の人物表現にも挑みました。県立美術館には横4メートルを超える大作《脱出》が所蔵されています。この作品は、旧約聖書「出エジプト記」のモーセのエジプト脱出を描いたもので、代表作の一つといえます。また、版画や墨彩画にも取り組み、伸びやかな線が特徴的な作品を残しました。

2011年には、増田が戦後暮らした釧路で大規模な展覧会が開催され、個人や企業が大切に所蔵してきた作品が一般に公開されました。これにより、重要な作品を多数購入することで画家を支えた釧路の人々の姿が明らかになりました。本展ではその成果も受け、故郷山梨で増田誠の画業を振り返ります。30年以上フランスで制作を続けた画家の軌跡をぜひご覧ください。



《リユー・ムフタール》1974年

会 期：7月14日（土）～9月23日（日）

午前9時～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

料 金：一般1,000円 大高生500円

中小生260円

※山梨県の小・中学生は、夏休みフリーパスポートで
何回でも無料

※小・中・高等・特別支援学校生は土曜日無料

特設展 「フランダースの犬 愛と友情の物語」

— 県立文学館 —

◆ネロとパトラッシュの美しく悲しい物語

ベルギーを舞台に、少年と愛犬の深い絆を描いた「フランダースの犬」は、一八七二年にイギリスの作家ウイダが書いた児童文学です。貧しい少年ネロが画家になることを夢見ながら、クリスマスの日には愛犬パトラッシュとともに死を迎えるというこの物語は、多くの読者に深い感銘を与え続けてきました。日本では、明治時代の終わりから百年以上の翻訳の歴史があり、これまでに菊池寛、川端康成、林芙美子など、名だたる文学者が訳した図書が出版されています。

◆親子で楽しめる展示です

本展では、感動の物語と翻訳の歴史を挿絵を交えながら、わかりやすく紹介します。一九七五(昭和五十)年に放映されたテレビアニメを御覧になった大人の方々も、物語の展開や背景を再確認することによって、改めてネロとパトラッシュの美しい魂の結びつきに感動をおぼえるはずですよ。

◆子どもワークショップ

八月三日(金)午後一時三十分〜
消しゴムはんこで犬のポストカードをつくろう
(定員二十五名 要申込)

文学館研修室

◆会期・開館時間・休館日

七月二十一日(土)〜八月二十六日(日)
午前九時〜午後五時(入室は四時三十分まで)
休館日は月曜日(八月十三日は開館)

◆入場料

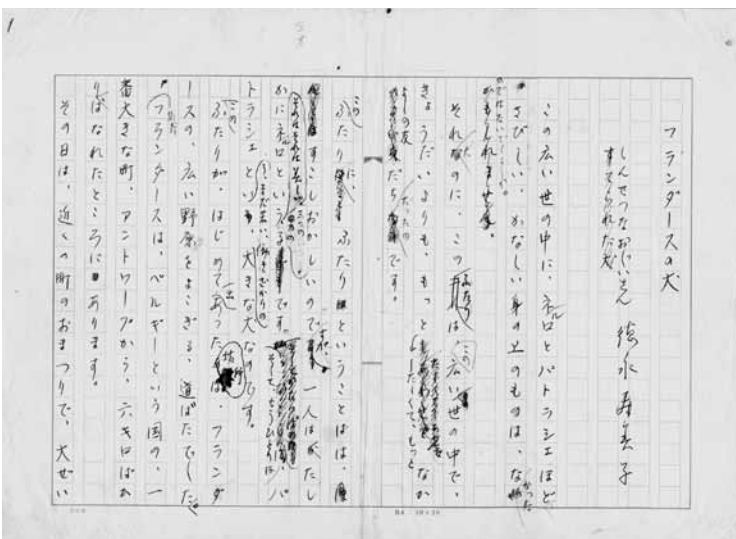
常設展観覧料で御覧いただけます。
一般三〇円 高校・大学生二一〇円
小・中学生一〇〇円

◆お問い合わせ・お申し込み

山梨県立文学館
電話 〇五五―二三五―八〇八〇
FAX 〇五五―二二六―九〇三二

*山梨県の小・中学生は夏休みフリーパスポート
で何回でも無料。

*小・中・高等・特別支援学校生は土曜日無料。



徳永寿美子「フランダースの犬」原稿

ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設の紹介をします。

南アルプス市立春仙美術館（南アルプス市）

1991年11月3日、南アルプス市小笠原出身の名取春仙の画業を広く紹介することを目的に、南アルプス市立春仙美術館は開館しました。

明治から昭和にかけて活躍し、最後の役者浮世絵師と言われる名取春仙は、浮世絵の伝統を生かしながら、時代の雰囲気を感じ出した、近代的でモダンな作品を描きました。

当館では、名取春仙の役者絵版画を中心に、日本画や挿絵・装幀など春仙芸術の真髄に迫る作品を収蔵しており、さらには春仙と同時代に活躍した山村耕花・川瀬巴水・笠松紫浪らの作品や、萩原英雄・深沢幸雄や南アルプス市出身の山本正文等の現代作家の作品も多数収蔵し展示公開しています。

また、こども版画教室や木版画刷りの体験、木版画実技講座や美術講演会など子どもから大人までさまざまな対象に向けた教育普及プログラムを展開しています。

住 所 南アルプス市小笠原1281
電話番号 055-282-6600
休 館 日 月曜日・祝日の翌日・年末年始・
 展示替期間
入 館 料 一般300円 大学生・高校生250円
 中学生・小学生150円
 20名以上団体料金2割引
駐 車 場 大型バス5台 普通車30台 無料



外 観



2階展示室



木版画刷り体験コーナー

「もっと山梨の文化財のことを知りたい…」web版『山梨の文化財ガイド』

～ 地域教材の研究、児童生徒の調べ活動などにご利用ください ～

— 学術文化財課 —

学術文化財課では、平成24年3月22日から、県内に所在する国及び県の指定等の文化財約730件についての基本情報と概要説明を紹介する『山梨の文化財ガイド』を山梨県の公式ホームページにおいて公開しています。ホームページでは文化財のジャンルごとに各地の文化財がご覧いただけます（右図参照）。

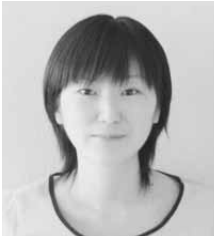
本件は、「おもてなしのやまなし観光振興条例」に基づく県民運動の推進や、平成25年1月から通年で開催予定の国民文化祭を通じて本県の文化資産の活用をベースにした様々な取組の展開、また富士山の世界文化遺産登録を目指す中で、富士北麓を中心とした文化財に関心を持ち、登録実現の機運醸成などを目的とし県内の文化財情報を整備したものです。

この他、学校において地域教材の掘り起こしや児童生徒の自主的な調べ活動などにも役立てていただくことなども期待されます。学校現場での積極的な活用をお願いいたします。



○トップページのURL

http://www.pref.yamanashi.jp/gakujutu/bunkazaihogo/bunkazai_guide0001.html



らくがき

育休中に思うこと

刃刀 也代衣

昨年の漢字は「絆」だった。私にとっても出産・育児を通じ、人との絆を感じる1年だった。生徒や先生方の思いやりを感じたり、家族の結び付きを感じたり、もちろん生まれてきた息子との繋がりを感じたり。ここでは字数が足りないので1つだけ、家族の予想外の変化について書きたい。

私の実父の話である。団塊世代の父は専業主婦だった母に育児の多くを任せていた。そんな父が「育ジイ」に変身したのだ。夫が育メンになるのは予想できたが、まさか父までも…。じーちゃんは一人で孫をベビーカーに乗せ散歩に出掛ける。昔16年も飼っていた犬はほとんど散歩しなかったのに。抱っこひもで公園を闊歩し、お歌を歌って寝かせつけもしてくれる。今や息子を寝かせるのに欠かせないのは私の「乳」と「父」だ。

新たにできた孫との絆が65歳の父を変えた。いくつになっても人は変わるのだと気付かされる。日頃「私はこういう人間だから…」と決めつけてあきらめてはいなかっただろうか。

今年の私の漢字はおそらく「育」。息子を育てながら自分も育ち、息子を通じてできていくいろいろな人たちとの絆を通じて、柔軟に変化していきたい。(県立甲府城西高等学校)



原点

金丸 学

教員生活も22年目を迎えた。知的障害のある人とのスポーツ活動も同じだけ取り組んできました。わかば養護学校時代に先輩教師に誘われ、第1回ゆうあいピック(全国知的障害者スポーツ大会、後の全国障害者スポーツ大会)のバスケットボール競技に参加するために、生徒を集めて練習を始めた。生徒らはボールを持つとゴールに向かって走り出す。パスをされてもキャッチできない。シュートもなかなか入らない。でも生徒達はとても楽しそうに生き生きと活動に打ち込んでいた。そんな実力のまま、ゆうあいピック東京大会に参加した。愛知県と対戦し、前半が終わったところで「0-40」。生徒の「学校に帰ってなんて報告したらいいの?」と泣きそうに訴えた顔が忘れられない。ここが今もバスケットを続けている私の原点である。

20年経ち、熱い思いを持つ特別支援学校の教師達が集結し、選手は年々着実に実力を付けてきた。今年4月7日、8日に関東ブロック予選会があり、男子は4位、女子は初の2位になった。選手の頑張りを見て目頭が熱くなった。

試合中タイムをとっても「がんばれ」としか指示を出せなかったあのころが懐かしい。

(県立かえで支援学校)

山梨の考古学と埋蔵文化財活用研修と各種事業の紹介

県埋蔵文化財センター

山梨の考古学と埋蔵文化財活用研修

県埋蔵文化財センターと県立考古博物館を、総合的な学習の時間等で、より多くの学校に積極的に活用していただくため、総合教育センターの外部共催研修「山梨の考古学と埋蔵文化財活用研修」を8月7日(火)、9日(木)に、学校の先生方を対象に開催いたします。

1日目は、考古博物館で施設見学、最新考古学の成果と教育プログラムの講義と火起こし体験を、2日目は、埋蔵文化財センターで考古資料の取り扱いと授業での埋蔵文化財活用法などの講義と土器作り体験を行います。オプションとして3日目(17日)に土器焼成、勾玉作り、石器製作などの体験を行います。



外部共催研修の土器作りの様子

2日間の研修を修了した受講者には、考古資料等の貸し出しをいつでも受けられる修了証を交付します。

発掘体験セミナー(一般対象)

身近な埋蔵文化財に対する興味と関心を深め、地域学習に活用いただけるよう、夏休み期間中など、半日単位で実際の遺跡で発掘体験セミナーを行っております。

考古資料貸出・出前支援授業(学校対象)

授業で児童・生徒に直接さわったりすることのできる遺物貸出キットを用意しておりますので、授業等で活用ください。また、職員が学校に向いて火起こしや土器作り・石器作り・勾玉作りなどの体験型の授業を支援する出前支援授業も行っています。

このほかにも職場体験学習や講師の派遣なども行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

◆お問い合わせ先 県埋蔵文化財センター

電話 055-266-3016

FAX 055-266-3882

URL <http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>



「凡事徹底」を合い言葉に、学校と家庭・地域の協働による学校づくり 南アルプス市立八田小学校

本校は、子どもたちの確かな学力と豊かな人間性の育成、地域の教育力の向上をめざして「学校・家庭・地域の協働による教育活動」に取り組んできました。未来を担う子どもたちを育てることを、学校と家庭、地域住民の共通の願いとして、学校を核とした教育活動を進めることは、「子ども、家庭、地域住民」のいずれにとっても徳となります。

◇地域が動けば学校もPTAも動き、地域の絆が強まり、みんなで子どもを育てる地域となる

- ・①できる事を、できる人が、できる時に ②求めている人と手をつなぎ ③むりせず、しかし、ながく ④多くの人の話題にする
- ・PTA348会員、学校応援団40名、子どもを守る会



休み時間に琉球アサガオの命をつなぐ
さし木をする、緑のカーテン隊員たち

190名、後援会1900世帯、子ども110番の家72か所。

◇PTAの取組

子どもの健全育成のために、PTAとして「今、具体的に何ができるか」を常に話題にしてきました。早寝早起き朝ご飯、親子読書、家庭学習、自分の身は自分で守る、自尊感情の向上等に取り組んでいます。

◇緑のカーテン隊

児童に、いのちをつなぐ心を育むことをねらいに始めました。児童が越冬させた琉球朝顔の苗を市内希望者に配布し、地域貢献の良さを味わわせます。

※今年度も「凡事徹底」を合い言葉に、学校・家庭・地域が一体となって児童の健全育成に取り組んでいきます。



PTA主催「生演奏と親子読書の夕べ」
読み聞かせに初挑戦する保護者4人

進学にも就職にも対応できる学校を目指して 実社会で生きる実学（福祉・商業・工業）を身につける

県立富士北稜高等学校

◇開校9年目

本校が総合学科高校として開校してから今年度で9年目に入ります。3月には6期生を卒業生として送り出しました。地域の方々の期待も年々高まってきており、活動の幅に広がりが出ています。

◇進学にも就職にも対応

基礎学力向上のために、朝の授業が始まる前に、スペリングコンテストや漢字テスト、算術検定の問題に取り組んでいます。結果を見直し、一定の水準に達していない場合は、再度試験範囲を勉強し、定着を図っています。

また、福祉、商業、工業系の系列では、進学先や就職

先で役立つ専門的な学習や資格取得に取り組んでいます。進学では国公立大学などに進学する生徒も増えています。

◇特色ある活動

以下の活動に取り組んでいます。

- ・ふじざくら交流会
- ・在宅訪問活動
- ・インターンシップ
- ・職場見学
- ・生徒発表会
- ・地域おこし

特に地域おこしでは、地域の畑の活用や酒蔵の改修、石窯製作による地域交流空間の創出、イベントの考案・運営・参加を通じての地域の賑わい創出などに取り組んでいます。今後も地域の方に信頼される学校を目指していきます。



在宅訪問活動で清掃活動をする北稜生



吉田の火祭りで出店する北稜生

教員の資質向上に資する研修会を目指して

総合教育センター 教育指導部

知識に国境がなく、グローバル化が一層進む「知識基盤社会」の時代にあつて、知識そのものや人材をめぐる国際競争はますます激化する一方で、異なる文化との共存や国際協定の必要性も叫ばれています。このような状況の下で、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことは、ますます重要になります。これらの課題を踏まえて改訂された学習指導要領も、昨年度の小学校での全面实施を皮切りに、本年度は、中学校において全面实施、高校において

一部先行実施となりました。このように変化が激しく、複雑で難しい時代の教育課題に 대응べく、総合教育センターでは、「教員の資質向上に資する研修会」を目指して課題の分析や各方面からの意見をもとに教育現場のニーズや教員のライフステージに合った研修会を提供できるように、次の目標を立てて本年度の研修会を企画しました。

(1) 教員の資質・能力の向上に資する、質の高い研修会を企画・実施する。

(2) 平素の教育活動に役立ち、実際の指導に活用できる講座内容の構築に努める。

「平成二十四年度研修体系」に示すように、様々な分野における研修会を企画するとともに、特に今年度新たな研修会として、ミドルリーダーの育成を目指した中堅教員研修会、そして、初任者研修会と五年経験者研修会の相互乗り入れ研修会など、より学校現場に役立つ研修会を新設しました。

また、昨年度実施した一七七の研修会を本年度は一四四の研修会に精選し、更なる内容の充実を図りました。

総合教育センターでは、現下の教育課題を踏まえ、教職員の専門性や資質・能力の向上に役立ち、より質の高い研修の提供ができるよう今後も努めてまいります。

平成24年度 研修体系

県内の国公立小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に勤務する教職員を対象として実施する平成24年度の研修会及びその体系

総合教育センター	基本研修 (必修研修)	① 管理職研修 新校長、新教頭
		1 教育経営研修
		② 主任等研修 新主幹教諭、新教務主任、新生徒指導主事・主任、中・高・特(併給)新学年主任・新学部主事、新研究主任、中学校新進路指導主事、道徳教育推進教師(道徳主任)、新特別支援学級担当、新特別支援教育コーディネーター、新防災教育リーダー、県立学校ネットワーク担当者及びPCリーダー、理科・視聴覚実習助手・講師、小学校経験3年目教員理科指導力向上、新期間採用教員
		③ 初任者研修
		2 経年研修
		④ 五年経験者研修
	⑤ 十年経験者研修	
	⑥ 中堅教員研修	
	専門研修 (希望研修)	3 教科等研修 注：次の枠内は教科等を示し、具体的な研修会名は掲げてありません。 国語、社会、地理、公民、算数、数学、理科、生活、音楽、図画工作・美術、体育、保健体育、技術・家庭、英語、小学校外国語活動、特別活動、総合的な学習の時間、道徳、高校情報、産業教育、養護教諭が行うフイジカルケア、保健室での心のケア
		4 教育課題研修 国際理解教育、環境教育、福祉教育、学校図書館教育、新聞の教育利用、食育、校内研究の進め方Ⅰ～Ⅲ、地震防災対策、期間採用教員、カリキュラム・マネジメントと学校評価、キャリア教育、学校組織マネジメント、学校・家庭・地域連携教育、特別研修
5 教育相談研修 いじめ・不登校に向き合う勇気づけの学級・学校づくり、学校で取り組む不登校児童生徒の理解と対応、心の健康教育としてのストレスマネジメント、ストレスマネジメント技法を身につけるための研修、教育相談基礎力・教育相談実践力を養う研修		
6 相談支援研修 関係機関との連携		
7 特別支援教育研修 特別支援教育専門、心理検査法、特別支援教育の授業づくりⅠ～Ⅲ、通常学級における特別支援教育、摂食指導・医療的ケア		
8 情報教育研修 情報セキュリティ・ネットトラブル対応、個人情報及び著作権の基本、メディア・リテラシー、電子黒板活用、ワゴンプロジェクター活用、はじめてのホームページ作成、プレゼンテーション基礎、成績処理のためのExcel2010活用、デジタル教材作成のためのPowerPoint2010活用、静止画像の加工と編集のためのデジタルビジュアル、デジタル教材作成のためのFlash、ビデオ教材作成のためのPremiere活用、デジタル素材作成のためのフリーソフト活用、マクロ(Excel VBA)基礎、データベース基礎(Access2010)、ネットワーク基礎、サーバー構築基礎(Windows)、県立学校PCリーダーフォローアップ、校務情報化のためのビジュアル活用		
9 外部共催研修 注：この研修は外部公的機関との共催研修です。 理科実験工作、身近な自然の指導法、体験で学ぶ火山、環境とものづくり、国際協力NGOセミナー、学校とミュージアムの新しい関係、山梨の考古学と埋蔵文化財活用		



11月11日、新県立図書館オープン！



山梨県立図書館



↑ 南東側方向から

新県立図書館は、県民の多様化、高度化する知的ニーズに応え、県民の学習・文化活動を支援する知的・文化的拠点として、また、県民が山梨を学び、交流することにより生み出される新たな文化や情報を発信する拠点として、今年11月11日(日)、甲府駅北口に開館します。

* 新図書館の概要 *

【開館時間】

- | | | |
|---------|-------|-----------|
| ・ 閲覧エリア | 平日 | 午前9時～午後8時 |
| | 祝日・土日 | 午前9時～午後7時 |
| ・ 交流エリア | | 午前9時～午後9時 |

【休館日】

- ・ 閲覧エリア 月曜日、年末年始等
- ・ 交流エリア 年末年始等

【施設の構成】

- ・ 1階 建物南側にメインエントランスをとり、多彩な催し物に利用できるイベントスペースやグループ学習などに利用できる交流ルームを配置しています。また、新聞雑誌コーナーや視聴覚資料コーナー、児童資料コーナー（子ども読書支援センター）があります。
- ・ 2階 一般図書と山梨関係資料を中心とした閲覧エリアです。また、約200席（可動）の多目的ホールや読書サービス室があります。
- ・ 3階 落ち着いた雰囲気の中で、じっくり調査研究を行うためのサイレントルームがあります。
- ・ 地下 収納効率の高い集密書架が設置されています。

* 休館のお知らせ *

6月11日(月)から11月10日(土)は移転・開館準備のため休館となります。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



山梨県立
図書館

YAMANASHI
PREFECTURAL
LIBRARY

↑ 新図書館のシンボルマークとロゴです！

山梨の文化財

県指定史跡

武田晴信室三条氏墓（円光院）

（昭和四十二年八月七日）

「武田晴信室三条氏」とは有名な武田信玄の奥方のことであり、「三条夫人」とも呼ばれています。三条夫人は京都の公家である三条公頼の次女として生まれ、天文五年（一五三六年）頃に武田家に嫁いだとされています。武田信玄との間に三男二女をもうけ、元亀元年（一五七〇年）に五〇歳で永眠されました。三条夫人は大変な美人であつたと伝えられており、葬儀の際に快川国師が「西方一美人」と述べたとされています。

武田晴信室三条氏墓がある円光院は、甲府市岩窪町にある由緒ある寺院であり、元は笛吹市石和町小石和にあつた成就院を武田信玄が躑躅ヶ崎館（甲府市武田）の城下である紺屋町に移したものが現在地にさらに移つたものとされています。元亀元年七月に三条夫人の葬儀はこの寺院で執り行われ、その際に三条夫人の法名に因み「円光院」という寺名に改められたと伝わっています。

武田晴信室三条氏墓は円光院の境内の小高い場所、甲府盆地を見下ろす場所に位置しています。昭和四十二年には墓所周辺が県史跡に指定され大切に保護されてきま



修理前



修理後

したが、周辺の樹木の根などの影響による墓石の傾きなどが進行してきたため、平成二十三年度に所有者が主体となり、発掘調査と文化財修理事業が行われました。

主な行事予定

県立美術館

特別展

「増田誠 パリー人生の哀歓」

7/14～9/23

県立博物館

企画展

「クニマスは生きていた
—山梨おさかな発見物語—」

7/14～9/3

県立考古博物館

夏季企画展

「ねがいと祈り 第1部 土偶のねがい
第2部 富士山への祈り」

7/21～8/31

県立文学館

特設展

「フランダースの犬 愛と友情の物語」

7/21～8/26

表紙を飾る



富士吉田市立下吉田中学校

2年 渡邊 麻有

作品タイトル 「アートな私」

好きなものや楽しいことに囲まれているときの幸せな気持ちをイメージして制作しました。自分の好きなパソコンや本を読むことを考えて制作していたので、楽しくて、明るい気持ちになりました。

髪の毛はマーブリングを使い、弾むような楽しい気持ちは紙を丸めて表現しました。モダンテクニックの技法、広告や段ボールなどの紙の特徴を生かす工夫もしました。

制作時間がかかったけれど、完成したときは達成感があり、とても嬉しかったです。

指導者：渡辺 和子 教諭

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。

アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744

◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。

URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html